

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホジツン メイセイガクエン 学校法人 明星学苑							
フリガナ大学の名称	メイセイガクガクガクイン 明星大学大学院 (Meisei University Graduate School)							
大学本部の位置	東京都日野市程久保2丁目1番地1							
大学の目的	<p>明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」に基づき、広い教養と深い専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、自己実現を目指し、社会に貢献する人を育成することを目的とする。この目的を実現するための教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。</p>							
新設学部等の目的	<p>国際コミュニケーション専攻では、多言語・多文化的な状況が加速する現代社会において、実践的な言語運用能力を備え、複眼的な視野で事象を分析して問題解決に取り組める高度な専門性を有する職業人及び研究者を育成する。</p> <p>国際コミュニケーション専攻（博士前期課程）では、実践的な言語運用能力、社会・文化の多様性の理解及び課題解決能力を身に付け、国際社会で活躍できる高度な専門性を有する職業人及び研究者を育成する。</p> <p>国際コミュニケーション専攻（博士後期課程）では、多言語・多文化的な現代社会を複合的・複眼的な視点から研究し、実践的な言語運用能力を用いて国際社会の共通課題をグローバルな視野に立って取り組むことができる自立した研究者及び指導的な役割を担うことができる高度な専門性を有する職業人を育成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地
	人文学研究科 [Graduate School of Humanities] 国際コミュニケーション専攻 [Program in International Studies] (博士前期課程)	年	人	年次 人	人	修士（国際コミュニケーション学） 【Master of Arts in International Studies】	令和2年4月 第1年次	東京都日野市程久保 2丁目1番地1
	(博士後期課程)	3	3	—	9	博士（国際コミュニケーション学） 【Doctor of Philosophy in International Studies】	令和2年4月 第1年次	
	計		13	—	29			
【基礎となる学部】 人文学部国際コミュニケーション学科								

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	○明星大学大学院 人文学研究科 英米文学専攻(博士前期課程)(廃止)(△10) 英米文学専攻(博士後期課程)(廃止)(△3) ※令和2年4月学生募集停止 心理学研究科 心理学専攻(博士前期課程)(15)(令和元年7月届出済み) 心理学専攻(博士後期課程)(3)(令和元年7月届出済み) 人文学研究科 心理学専攻(博士前期課程)(廃止)(△10) 心理学専攻(博士後期課程)(廃止)(△3) ※令和2年4月学生募集停止								
	○明星大学 建築学部 建築学科(学部の設置)(120)(平成31年4月届出済み) 理工学部 総合理工学科[定員減](△120)(令和2年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	人文学研究科 国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	44科目	4科目	0科目	48科目	30単位			
人文学研究科 国際コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	18科目	6科目	0科目	24科目	20単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	人文学研究科 国際コミュニケーション専攻 (博士前期課程)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		人文学研究科 国際コミュニケーション専攻 (博士後期課程)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		心理学研究科 心理学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)
		心理学研究科 心理学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		計	16 (16)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	- (-)
	既設分	理工学研究科 物理学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 物理学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 化学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 化学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 機械工学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 機械工学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 電気工学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		理工学研究科 電気工学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
理工学研究科 建築・建設工学専攻 (博士前期課程)		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
理工学研究科 建築・建設工学専攻 (博士後期課程)		6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
理工学研究科 環境システム学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	0 (0)		

教員組織の概要	既設分	理工学研究科 環境システム学専攻（博士後期課程）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		人文学研究科 社会学専攻（博士前期課程）	12 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
		人文学研究科 社会学専攻（博士後期課程）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		情報学研究科 情報学専攻（博士前期課程）	9 (9)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	
		情報学研究科 情報学専攻（博士後期課程）	6 (6)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
		経済学研究科 応用経済学専攻（修士課程）	10 (10)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	5 (5)	
		教育学研究科 教育学専攻（博士前期課程）	15 (15)	4 (4)	8 (8)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	1 (1)	
		教育学研究科 教育学専攻（博士後期課程）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	
		教育学研究科 教育学専攻（通信課程） 教育学専攻（博士前期課程）	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	
		教育学研究科 教育学専攻（通信課程） 教育学専攻（博士後期課程）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
		計	85 (85)	41 (41)	8 (8)	1 (1)	135 (135)	0 (0)	— (—)	
		合計	101 (101)	49 (49)	8 (8)	1 (1)	159 (159)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任	兼 任	計						
	事 務 職 員	150 (150)	136 (136)	286 (286)						
	技 術 職 員	0 (0)	78 (78)	78 (78)						
	図 書 館 専 門 職 員	2 (2)	0 (0)	2 (2)						
	そ の 他 の 職 員	0 (0)	4 (4)	4 (4)						
	計	152 (152)	218 (218)	370 (370)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校舎敷地	197,697㎡	0㎡	0㎡	197,697㎡	・日野校				
		683,812㎡	0㎡	0㎡	683,812㎡	・青梅校				
	運動場用地	74,314㎡	0㎡	0㎡	74,314㎡	・日野校				
		94,320㎡	0㎡	0㎡	94,320㎡	・青梅校				
	小 計	272,011㎡	0㎡	0㎡	272,011㎡	・日野校				
		778,132㎡	0㎡	0㎡	778,132㎡	・青梅校				
	その他	17,243㎡	0㎡	0㎡	17,243㎡	・日野校				
18,621㎡		0㎡	0㎡	18,621㎡	・青梅校					
合 計	1,086,007㎡	0㎡	0㎡	1,086,007㎡	大学全体					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	179,251㎡	0㎡	0㎡	179,251㎡	・日野校					
	(179,251㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(179,251㎡)						
	32,714㎡	0㎡	0㎡	32,714㎡	・青梅校					
(32,714㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(32,714㎡)							
211,965㎡	0㎡	0㎡	211,965㎡	大学全体						
(211,965㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(211,965㎡)							
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	92室	230室	244室	19室 (補助職員 6人)	0室 (補助職員 0人)	・日野校				
	23室	8室	36室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員 0人)	・青梅校				
	115室	238室	280室	20室 (補助職員6人)	0室 (補助職員 0人)	大学全体				

専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		人文科学研究科 国際コミュニケーション専攻			11 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用 分図書：890,092 冊〔358,751冊〕 学術雑誌：11,723 種〔11,068種〕		
	人文科学研究科 国際コミュニケーション専攻	138,531〔86,802〕 (138,131〔86,793〕)	431〔407〕 (431〔407〕)	269〔269〕 (269〔269〕)	235 (235)	496 (496)	0 (0)			
	計	138,531〔86,802〕 (138,131〔86,793〕)	431〔407〕 (431〔407〕)	269〔269〕 (269〔269〕)	235 (235)	496 (496)	0 (0)			
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		16,865㎡		862席		1,563,400冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体 ・日野校 ・青梅校		
		8,006㎡		野球場、テニスコート						
		4,928㎡		野球場、テニスコート						
		12,934㎡						大学全体		
経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む 設備購入費は大学全体	
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	-	-	-		
	共同研究費等		49,500千円	49,500千円	49,500千円	-	-	-		
	図書購入費	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	-	-	-		
	設備購入費	40,000千円	40,000千円	40,000千円	40,000千円	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	850千円	600千円	600千円	-千円	-千円	-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、補助金収入等							
大学の名称		明星大学							既設大学等の状況 平成22年4月より 学生募集停止 (化学科) 平成29年4月より 学生募集停止 (心理学科) 平成29年4月より 入学定員変更 (経済学科300→ 260)	
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
理工学部		年	人	年次人	人		倍			
総合理工学科		4	400	-	1,600	学士(理学) 学士(工学)	1.00	平成22年度		
化学科		4	-	-	-	学士(理学)	-	昭和39年度		
人文学部							1.15			
国際コミュニケーション学科		4	100	-	400	学士(国際コミュニケーション学)	1.25	平成17年度		
人間社会学科		4	80	-	320	学士(社会学)	1.10	昭和40年度		
心理学科		4	-	-	-	学士(心理学)	-	平成22年度		
日本文化学科		4	100	-	400	学士(文学)	1.11	平成22年度		東京都日野市程久保2丁目1番地1
福祉実践学科		4	60	-	240	学士(社会福祉学)	1.10	平成22年度		
経済学部							1.08			
経済学科		4	260	-	1,080	学士(経済学)	1.08	平成13年度		
情報学部							1.08			
情報学科		4	140	-	560	学士(情報)	1.08	平成17年度		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	教育学部						1.13			
	教育学科	4	350	—	1,370	学士(教育学)	1.13	平成22年度		平成29年4月より入学定員変更(教育学科320→350)
	経営学部						1.11			
	経営学科	4	200	—	800	学士(経営学)	1.11	平成24年度		
	デザイン学部						1.07			
	デザイン学科	4	120	—	480	学士(デザイン学)	1.07	平成26年度		
	心理学部						1.10			
	心理学科	4	120	—	360	学士(心理学)	1.10	平成29年度		
	(通信教育部)									
	教育学部						0.05			
	教育学科(通信課程)	4	2,000	—	8,000	学士(教育学)	0.05	平成22年度		
	人文学部						—			
	心理・教育学科(通信課程)	4	—	—	—	学士(教育学)	—	昭和42年度	東京都日野市程久保2丁目1番地1	平成22年4月より学生募集停止(人文学部心理・教育学科(通信課程))
	(大学院)									
	理工学研究科									
	(博士前期課程)						0.36			
	物理学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.15	昭和54年度		
	化学専攻	2	10	—	20	修士(理学)	0.75	昭和48年度		
	機械工学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	0.50	昭和55年度		
	電気工学専攻	2	10	—	20	修士(工学)	0.10	昭和54年度		
	建築・建設工学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	0.30	平成20年度		
	環境システム学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	0.30	平成20年度		
	(博士後期課程)						0.04			
	物理学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.00	昭和56年度		
	化学専攻	3	5	—	15	博士(理学)	0.20	昭和51年度		
	機械工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.00	昭和57年度		
	電気工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.00	昭和56年度		

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
建築・建設工学専攻	3	3	—	9	博士（工学）	0.00	平成20年度	東京都日野市程久保2丁目1番地1
環境システム学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.00	平成20年度	
人文学研究科 (博士前期課程)						0.44		
英米文学専攻	2	10	—	20	修士（英米文学）	0.25	昭和58年度	
社会学専攻	2	10	—	20	修士（社会学）	0.00	昭和46年度	
心理学専攻	2	10	—	20	修士（心理学）	1.10	昭和49年度	
(博士後期課程)						0.29		
英米文学専攻	3	3	—	9	博士（英米文学）	0.11	昭和63年度	
社会学専攻	3	3	—	9	博士（社会学）	0.11	昭和51年度	
心理学専攻	3	3	—	9	博士（心理学）	0.66	昭和53年度	
経済学研究科 (修士課程)						0.35		
応用経済学専攻	2	10	—	20	修士（応用経済学）	0.35	平成18年度	
情報学研究科 (博士前期課程)						0.71		
情報学専攻	2	7	—	14	修士（情報学）	0.71	平成10年度	
(博士後期課程)						0.22		
情報学専攻	3	3	—	9	博士（情報学）	0.22	平成12年度	
教育学研究科 (博士前期課程)						0.05		
教育学専攻	2	10	—	20	修士（教育学）	0.05	平成26年度	
(博士後期課程)						0.11		
教育学専攻	3	3	—	9	博士（教育学）	0.11	平成26年度	

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	(通信制大学院) 教育学研究科								
	(博士前期課程) 教育学専攻 (通信課程)	2	30	—	60	修士(教育学)	0.41	平成11年度	東京都日野市程久保2丁目1番地1
	(博士後期課程) 教育学専攻 (通信課程)	3	3	—	9	博士(教育学)	1.22	平成18年度	
	附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(人文学研究科 国際コミュニケーション専攻（博士前期課程）)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目 研究科目	断領域 研究	研究方法特別講義A	1前	2			○			4	1				オムニバス
		研究方法特別講義B	1前	2			○			3	2				オムニバス
	留學生 対応	日本語・日本事情特別講義A	1前		2		○				1				
		日本語・日本事情特別講義B	1後		2		○				1				
	コミュニケーション 研究領域	コミュニケーション研究1A (ビジネスコミュニケーション)	1・2前		2		○			1					
		コミュニケーション研究1B (ビジネスコミュニケーション)	1・2後		2		○			1					
		コミュニケーション研究1C (ビジネスコミュニケーション)	1・2前		2		○			1					
		コミュニケーション研究1D (ビジネスコミュニケーション)	1・2後		2		○			1					
		コミュニケーション研究2A (メディア研究)	1・2前		2		○			1					
		コミュニケーション研究2B (メディア研究)	1・2後		2		○			1					
		コミュニケーション研究2C (メディア研究)	1・2前		2		○			1					
		コミュニケーション研究2D (メディア研究)	1・2後		2		○			1					
		コミュニケーション研究3A (ディスコース分析)	1・2前		2		○				1				
		コミュニケーション研究3B (ディスコース分析)	1・2後		2		○				1				
		コミュニケーション研究3C (ディスコース分析)	1・2前		2		○				1				
		コミュニケーション研究3D (ディスコース分析)	1・2後		2		○				1				
	言語学 研究領域	言語学研究1A (英語学)	1・2前		2		○			1					
		言語学研究1B (英語学)	1・2後		2		○			1					
		言語学研究1C (英語学)	1・2前		2		○			1					
		言語学研究1D (英語学)	1・2後		2		○			1					
		言語学研究2A (英語教育)	1・2前		2		○			1					
		言語学研究2B (英語教育)	1・2後		2		○			1					
		言語学研究2C (英語教育)	1・2前		2		○			1					
		言語学研究2D (英語教育)	1・2後		2		○			1					
		言語学研究3A (日中対照言語学)	1・2前		2		○				1				
		言語学研究3B (日中対照言語学)	1・2後		2		○				1				
	言語学研究3C (日中対照言語学)	1・2前		2		○				1					
	言語学研究3D (日中対照言語学)	1・2後		2		○				1					
	文化 研究領域	文化研究1A (英米文化研究)	1・2前		2		○			1					
		文化研究1B (英米文化研究)	1・2後		2		○			1					
		文化研究1C (英米文化研究)	1・2前		2		○			1					
		文化研究1D (英米文化研究)	1・2後		2		○			1					
		文化研究2A (比較文化研究)	1・2前		2		○				1				
		文化研究2B (比較文化研究)	1・2後		2		○				1				
	文化研究2C (比較文化研究)	1・2前		2		○				1					
	文化研究2D (比較文化研究)	1・2後		2		○				1					
	国際社会 研究領域	国際社会研究1A (国際関係)	1・2前		2		○			1					
		国際社会研究1B (国際関係)	1・2後		2		○			1					
		国際社会研究1C (国際関係)	1・2前		2		○			1					
		国際社会研究1D (国際関係)	1・2後		2		○			1					
国際社会研究2A (異文化理解)		1・2前		2		○			1						
国際社会研究2B (異文化理解)		1・2後		2		○			1						
国際社会研究2C (異文化理解)		1・2前		2		○			1						
国際社会研究2D (異文化理解)		1・2後		2		○			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 攻 科 目	論文 科目 指導	博士前期研究指導 1 A	1前	2				○		7	3					
		博士前期研究指導 1 B	1後	2				○		7	3					
		博士前期研究指導 2 A	2前	2				○		7	3					
		博士前期研究指導 2 B	2後	2				○		7	3					
合計 (48科目)			—	12	84	0		—		7	4	0	0	0		—
学位又は称号	修士 (国際コミュニケーション学)		学位又は学科の分野			文学関係										
修了要件及び履修方法						授業期間等										
博士前期課程の学生は、必修科目12単位、選択科目18単位以上の計30単位以上を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。						1 学年の学期区分			2学期							
						1 学期の授業期間			15週							
						1 時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要															
(人文学研究科 国際コミュニケーション専攻（博士後期課程）)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	シ ョ ン 研 究 領 域	コミュニケーション特殊研究1A (ビジネスコミュニケーション)	1・2・3前		2		○			1					
		コミュニケーション特殊研究1B (ビジネスコミュニケーション)	1・2・3後		2		○			1					
		コミュニケーション特殊研究2A (メディア研究)	1・2・3前		2		○			1					
		コミュニケーション特殊研究2B (メディア研究)	1・2・3後		2		○			1					
	言 語 学 研 究 領 域	言語学特殊研究1A(英語学)	1・2・3前		2		○			1					
		言語学特殊研究1B(英語学)	1・2・3後		2		○			1					
		言語学特殊研究2A(英語教育)	1・2・3前		2		○			1					
		言語学特殊研究2B(英語教育)	1・2・3後		2		○			1					
		言語学特殊研究3A(日中対照言語学)	1・2・3前		2		○				1				
		言語学特殊研究3B(日中対照言語学)	1・2・3後		2		○				1				
	文 化 研 究	文化特殊研究1A(英米文化研究)	1・2・3前		2		○			1					
		文化特殊研究1B(英米文化研究)	1・2・3後		2		○			1					
		文化特殊研究2A(比較文化研究)	1・2・3前		2		○				1				
		文化特殊研究2B(比較文化研究)	1・2・3後		2		○				1				
	研 究 領 域	国際社会特殊研究1A(国際関係)	1・2・3前		2		○			1					
		国際社会特殊研究1B(国際関係)	1・2・3後		2		○			1					
		国際社会特殊研究2A(異文化理解)	1・2・3前		2		○			1					
		国際社会特殊研究2B(異文化理解)	1・2・3後		2		○			1					
	論 文 指 導	博士後期研究指導1A	1前	2				○		7	2				
		博士後期研究指導1B	1後	2				○		7	2				
		博士後期研究指導2A	2前	2				○		7	2				
		博士後期研究指導2B	2後	2				○		7	2				
		博士後期研究指導3A	3前	2				○		7	2				
		博士後期研究指導3B	3後	2				○		7	2				
合計(24科目)		—	12	36	0	—	—	—	7	2	0	0	0	—	
学位又は称号	博士(国際コミュニケーション学)		学位又は学科の分野				文学関係								
修了要件及び履修方法								授業期間等							
博士後期課程の学生は、必修科目12単位、選択科目8単位以上の計20単位以上を修得し、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（人文学研究科 国際コミュニケーション専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 研究科目	領域横断科目	研究方法特別講義A 本講義では、複眼的な視点で研究を行うことができるように、本専攻の各領域を横断的に学修する。 （オムニバス方式／全15回） （2 岩下 俊治／3回） 生成文法の研究手法について、研究対象、研究手法、言語研究に及ぼした影響について、入門的な講義を行う。 （3 田中 宏昌／3回） ビジネスディスコース研究の手法、研究対象、理論、社会的背景についての導入的な講義をする。 （4 毛利 聡子／3回） 時事的な問題について、国際関係論の観点からどのような分析・解釈が可能なのかを提示することによって、導入的な講義をする。 （5 細谷 等／3回） ナラトロジーを中心として、テキスト解釈の理論と実践についての導入的な講義をする。 （10 趙 海城／3回） コーパスを用いた日本語学研究、日本語教育への応用研究を中心に、研究対象、研究手法、入手可能なデータ等について導入的な講義をする。	オムニバス方式
		研究方法特別講義B 本講義では、複眼的な視点で研究を行うことができるように、本専攻の各領域を横断的に学修する。 （オムニバス方式／全15回） （1 張 曉瑞／3回） ソーシャルメディア研究における基本的な概念と理論及び研究方法について、実践しながら講義を進行する。 （6 菊地 滋夫／3回） 今日では幅広い分野で用いられるようになった「フィールドワーク」について、人類学的な文脈に即して解説する。 （7 深田 芳史／3回） 語学教育研究において、混合研究法を導入する上で必要となる理論的背景と実践スキルの概要を学ぶ。 （8 高島 美穂／3回） ヨーロッパの文学作品を中心に、比較文化・文学研究の方法や目的、歴史・社会的背景に関する導入的な講義をする。 （11 川又 孝徳／3回） ディスコース研究の理論と実践について、複数のテキストを基に議論する。	オムニバス方式
	留学生対応科目	日本語・日本事情特別講義A	本講義は、現代の日本人の生活、教育、社会・環境問題などから、特徴的であると考えられる社会事象を取り上げ、その事象がどのようなものであるかを要因や背景を含めて理解し、その意味を考えることを目的とする。まず、日本にとっての意味、次に、その事象と自分や自国との関係、さらに世界との関連を考え議論する。前半は講義を聴き必要に応じて調査・議論し、後半は学生各自が興味のある日本の社会事象について調査・考察し、結果をまとめて発表、議論する形で授業を進める。そのことにより、日本語による読解力、思考力、表現力の向上も図る。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	留学生対応科目	日本語・日本事情特別講義B	本講義は、日本語によるレポートや論文の書き方を学び、特に構成や日本語表現に注意しながら自分で選んだテーマに沿った小論文を書き上げることを目的とする。論文の構成や論文の考え方を学び、論文における日本語の言葉選び、表記、表現、文体について学ぶ。その上で、明晰でわかりやすい文章の書き方や文章展開を学ぶ。実際に刊行されている日本語の論文を読んだり、論文の書き方に関する練習問題を行ったりする一方で、自分の論文を書き進める。小論文は学生自身で評価項目を決め、お互いに読み合い、相互自己評価を行う。	
		コミュニケーション研究1A (ビジネスコミュニケーション)	ビジネスコミュニケーションの過去の研究とディスコースの概念の理解を目標とする。講義ではビジネスコミュニケーションのこれまでの発展の経緯とディスコースという概念を論ずる。ビジネスの場における言語への様々なアプローチ、社会的な変化とビジネスコミュニケーションの内容の変化を論じたのちに、日本におけるビジネスコミュニケーション研究を俯瞰し、言語中心の分析、言語テスト開発、言語と文化の関係、数量的なアプローチ、言語ストラテジー、コーパス分析の研究例を示す。	
	コミュニケーション研究1B (ビジネスコミュニケーション)	本講義は、ビジネスディスコース研究方法の理解を目標とする。講義ではビジネスディスコース分析という手法によるビジネスコミュニケーション研究を論ずる。ビジネスディスコース研究のこれまでの流れと複合分析手法の必要性を講義したのちに、エスノメソドロジー、批判的研究、ボライトネス理論、文化人類学を活用したビジネスディスコース研究を精査し、複数の研究アプローチを使う必要性の理解を進める。最後に研究の基本となる存在論と認識論について議論する。		
	コミュニケーション研究1C (ビジネスコミュニケーション)	本講義は、ビジネスのグローバル化と英語ビジネスコミュニケーションの理解を目標とする。講義ではビジネスにおけるリンガフランカ英語 (共通語としての英語) の使用と、分析手法を論ずる。まず、ビジネスのグローバル化という背景とビジネスにおける英語使用の観察のこれまでの流れを理解し、世界における様々な研究を俯瞰する。ワールドイングリッシュ研究、リンガフランカ英語に関する応用言語学からのアプローチ、リンガフランカ英語に関するウィーン学派からのアプローチ、フィンランドにおけるBELF (Business English as Lingua Franca) 研究、Language という概念とLanguaging という概念の違い、スタンスという概念とLanguaging、などの研究を理解した上で、Translingual Practice としてのビジネスコミュニケーションの理解を深める。		
	コミュニケーション研究領域	コミュニケーション研究1D (ビジネスコミュニケーション)	言語と組織研究の関係の理解することを目標とする。講義では、言語と組織、企業内ビジネスコミュニケーション教育と組織開発を論ずる。まず組織研究とビジネスコミュニケーションの関係を理解し、様々な次元における研究を紹介する。英語に焦点を置いたマネジメント研究、言語とリーダーシップ研究などの言語と結びついたマネジメント分野の研究を紹介し、組織における英語ビジネスコミュニケーションの位置を理解する。ニーズ分析手法、プログラムデザイン、またフェイス、敬語、人事制度など、多方面からのアプローチを使った研究の可能性を議論する。	
	コミュニケーション研究2A (メディア研究)	本講義は、ソーシャルメディア研究のコンセプトとデザインを十分に理解することを目標とする。ソーシャルメディア発展の歴史、ソーシャルメディア研究は何を理解するのに役立つのか、ソーシャルメディアの研究手法、特に、質的アプローチを中心としたソーシャルメディア研究の方法について授業を展開していく。そして、同時に授業参加者が自分自身の研究デザインを行う。Facebook, Twitter, Line, Instagramなど、異なるソーシャルメディアコンテキストにおいて、ネットグラフィーを行い、テキストデータ、ビジュアルデータ、インタビューデータなど多様なデータを収集し、分析を行う。		
	コミュニケーション研究2B (メディア研究)	本講義は、ソーシャルメディア研究のリサーチメソッドを中心に講義である。特に、定性的な方法について、認識論と存在論の側面から議論していく。エスノメソドロジー、オンライン民族誌、参与観察、オンライン・インタビュー、研究倫理などのフィールドワーク実施方法を実例により紹介し、コンテンツ分析、談話分析、記号分析、修辞分析などのデータ分析方法を実践的に学ぶ。そして、異なるソーシャルメディアコンテキスト及び異なる文化的コンテキストにおいて、授業参加者が自ら研究テーマを決め、研究を行う。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	研究科 研究領域	コミュニケーション研究 2 C (メディア研究)	本講義は、ニュー・リテラシーを定義する概念的枠組み、デジタルコンテキストにおけるニュー・リテラシーの要素が分析できることを目標とする。技術と社会、携帯電話と奨励実践、バーチャル世界における空間と場所概念の再考、デジタルテキスト作成プロセスの分析、デジタルテキスト受信過程の解釈、デジタルテキストの対話的性質と協調性、そして、デジタルリテラシーの要素などの側面から議論を展開していく。最後に、ニューリテラシーとデジタル時代の文化及び教育実践について考える。	
		コミュニケーション研究 2 D (メディア研究)	本講義は、ソーシャルメディア・マーケティング・リサーチの歴史と現状をレビューし、研究デザインとプロセスを十分に理解し、自分で研究ができるようになることを目標とする。この講義では、特に観光業におけるソーシャルメディア・マーケティング・リサーチのコンセプトと基本的なデザインを紹介する。Web 1.0からWeb 3.0の基本的な概念と定義、ソーシャルネットワーク・サイト、バーチャル・コミュニティ、コンテンツ・コミュニティ、ロコミ文化、オンラインロコミの分析次元、ソーシャルメディアが与える旅行者への影響、ソーシャルメディア上での旅行体験の共有、ユーザー生成コンテンツの分析の概念と方法を理解した上、研究実践を行う。	
		コミュニケーション研究 3 A (ディスコース分析)	本講義では、批判的談話分析研究(Critical Discourse Studies)の先行研究を用いながら、言語を批判的に分析する方法と研究の理論的枠組みについて学ぶ。特に言語と文化と社会に焦点を当てた論文を中心に、自然発生的な会話データに埋め込まれている差別や偏見をどのように分析するか、その際の妥当な方法は何かを議論する。また、実際に会話データを集め、トライアングレーションに基づいた分析の実践も行う。ディスコース研究の最新の論文を取り上げ、研究テーマや分析手法の妥当性についてもディスカッションを行う。	
		コミュニケーション研究 3 B (ディスコース分析)	本講義では、「コミュニケーション研究 3 A (ディスコース分析)」に引き続き、批判的談話分析研究(Critical Discourse Studies)の先行研究を用いながら、言語を批判的に分析する方法と研究の理論的枠組みについて学ぶ。特に日本のディスコース研究の論文を中心に、言語と価値体系や歴史、社会情勢がどのようにディスコースを構築してきたかについて議論を行う。また、社会構築主義的なデータ分析手法を紹介し、テキストや雑誌などを用いてディスコース分析の実践も行う。批判的な視野を養うことで、複眼的な認識を持ち、研究に取り組む姿勢を養うことを目的としている。	
		コミュニケーション研究 3 C (ディスコース分析)	本講義では、ディスコース研究の最新の論文を取り上げ、ディスコースを分析する方法と研究の理論的枠組みについて学ぶ。特に近年注目されているSNSやITCを用いたディスコース研究を行い、グローバル化や液状化するモダニティの議論のような社会的側面に応用言語学的側面を援用し、学際的なアプローチを中心にディスカッションを行う。また、質的研究方法を用いてセグメント化しないデータ分析の手法を実践し、ナラティブやSNS上のやり取りを通してディスコース分析についての理解を深める。	
		コミュニケーション研究 3 D (ディスコース分析)	本講義では、ディスコース研究の手法を用いながら、言語を批判的に分析する方法と研究の理論的枠組みについて学ぶ。特に、linguagingの論文や言語帝国主義の論文を取り上げ、日本を取り巻く言語環境をどのように捉えていくかを、複数のテキストを用いて議論する。クラスルームディスコースを実際の体験教育プログラムを使ってデータ収集し、実践的なディスコース分析を行う。こうした実践を通して、ディスコースを理解するだけでなく、概念的な枠組みを理解することで、批判的な視点を養うことを目的としている。	
	言語学研究領域	言語学研究 1 A (英語学)	本講義は、理論と言語事実であるデータとを関連付ける技法の修得を目標とし、抽象性と具体性のバランスの取れた言語分析の手法を身に付け、より専門的な研究の基礎の構築を目指す。生成文法の登場により言語分析は、理論的な分析に重きが置かれるようになったが、その反動として、より言語事実即ち分析を主張する立場も現れてきている。どちらの立場にも偏らない分析を考える。それにより、中立的で客観的な言語分析の手法を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	研究科目	言語学研究領域	言語学研究 1 B (英語学)	言葉の持つ主要な機能はcommunicationの道具としての情報伝達機能である。この情報伝達機能としての言葉のメカニズムを解明する分野として、コーパス言語学がある。本講義は、コーパス言語学の研究成果を踏まえて、Communicative Approachに基づいた英語教育に貢献する文法分析を学ぶ。コミュニケーションをとる時の言葉の選択は、(1) コミュニケーションをとろうとする理由・目的、(2) コミュニケーションをとる状況、(3) コミュニケーションをとる相手との関係、(4) 書き言葉と話し言葉の違い、というような要因に影響される。様々な状況における言葉の選択の規則性を学んで、教育や学習に効果的な文法の理解を目指す。	
			言語学研究 1 C (英語学)	本講義は、生成文法理論に基づく言語分析の手法の理解を目的とする。生成文法は、人間が使う言語に共通した普遍文法の解明を目標としている。英語という個別の言語の文法分析が、どのように普遍文法の解明に寄与するのかを、過去の研究実績から学ぶ。そのうえで、英語の文法のどの部分が普遍的なものであり、どの部分が英語特有の個別的なものであるのかを理解する。そうすることによって、英語という言葉の特徴を把握して、研究や学習に活用することを目指す。	
			言語学研究 1 D (英語学)	生成文法理論は、人間が言葉を習得できるのは、生まれながらに言葉についてのある程度の抽象的な知識を持っているからだと仮定する。この生まれながらに持っている仮定される言語知識を普遍文法(Universal Grammar)と呼ぶ。本講義では、この普遍文法(Universal Grammar)の体系の理解を目指す。特に、GB理論を中心に考察する。普遍文法がどのように、また、どの程度、第1言語習得に影響を与えるかを分析する。更に、外国語の習得である第2言語習得のメカニズムについても学ぶ。それにより、効果的な英語教育や学習について考察する。	
			言語学研究 2 A (英語教育)	本講義では、これまでの英語教育の歴史の中で導入されてきた、文法訳読法やオーディオリンガルメソッドといった伝統的な英語教授法から、コミュニカティブランゲージティーチング、タスクベースドランゲージティーチング、プロジェクトベースドティーチングといったより新しい教授法の特徴を学び、日本の英語教育コンテキストでこれらの教授法を導入する方法、そして、導入する上で直面しうる課題を議論する。また、実際に授業を展開する上で必要となるシラバス、教案作成についての理解を深める。	
			言語学研究 2 B (英語教育)	本講義では、「言語学研究 2 A (英語教育)」に引き続き、教室内における英語教育に焦点を当て、グループダイナミクスという概念的枠組みの中でクラスルームコミュニティーが、語学学習者一人ひとりの学び、または、語学学習動機に及ぼす影響について議論する。また、クラスルームコミュニティーにおける相互的な目標言語使用、サポート、そして、目標言語に関わる学びを促進していくためのクラス内での教師の働きかけ、学習者とのやりとり、授業活動について考える。さらには、グループ内における相互のやりとりの中で生成される英語学習動機、Group-framing of motivationについても議論して行く。	
			言語学研究 2 C (英語教育)	「言語学研究 2 B (英語教育)」では、クラスルームコミュニティーに焦点を当てたが、本講義では、語学学習への取り組みや成果に大きく影響するとされる、個々の語学学習者のアイデンティティー・動機づけに焦点を当てる。いずれも心理学の分野で生まれた概念で、個人内に固定化して存在するものとして捉えられていたが、現在では、前者は、ポスト構造主義の観点で捉えられ、語学学習投資との関係が明らかにされている。後者も、教室内・外の複数の動機づけ要因が明らかにされ、コンプレックスダイナミックシステムの観点からも分析されるようになった。こうした研究動向の概要を捉えるとともに、日本の英語学習者のアイデンティティー・英語学習動機と英語使用・学習との関連性について議論していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	研究科目	言語学研究 2 D (英語教育)	本講義では、語学学習者の教室内・外における目標言語を介した社会的やりとりについて焦点を当てる。目標言語を介した社会的やりとりを状況的学習・実践コミュニティといった概念的枠組みの中で捉え、その効果（目標言語能力の向上、新たなDiscourseの獲得など）を明らかにする。また、語学学習者である留学生の具体的事例をいくつか取り上げ、目標言語を介した社会的やりとりの機会獲得の促進・妨げ要因について学び、さらには、近年の研究で見えてきた語学学習者のTrans-bordering cultural capitalの目標言語使用機会獲得に及ぼす影響についても触れる。	
		言語学研究 3 A (日中対照言語学)	本講義は、「日本語学」における基本的な概念を理解し、具体的な表現例について考えることにより、「日本語を客観的に観察し、そこに潜む規則を見出す」考え方を身に付けることを目標とする。現代日本語の仕組みを客観的に考え、日本語学に関する基礎的な知識を体系的に学ぶ。中国語のできる履修者には同様なカテゴリーは日中両言語ではどのような異同点を持つかを考える。具体的には文の構造と文法カテゴリー、自他動詞、ボイス、テンス・アスペクト、モダリティ、複文、名詞修飾、談話・テキスト・敬語等について扱い、履修者と議論する。	
		言語学研究 3 B (日中対照言語学)	本講義は、現代日本語と中国語を研究対象に、コーパスを利用した言語研究の基本的な手法を理解することを目標とする。講義では、現在利用できる多様な日本語コーパス/中国語コーパスを用いながらコーパスの検索と加工・集計分析の手法を学ぶ。またコーパスを用いた研究論文(日本語と中国語)を講読し、その分析方法・結果を検証しながら議論する。具体的には、コーパスの概念、現段階で入手・利用できるコーパスを紹介した上で、コーパスデータの検索・加工・分析及び頻度処理について講義する。それから、日本語と中国語におけるコーパスを用いた語彙、語法、文法、文章・文体、談話研究の論文を講読して、それぞれの研究結果を検証しながら議論する。	
		言語学研究 3 C (日中対照言語学)	本講義は、言語研究に用いる統計手法を学び、それを理解した上でデータ分析できることを目標とする。講義では、仮説検定、相関分析、回帰分析、判別分析、クラスター分析、主成分分析、因子分析、コレスポンデンス分析等を取り上げ、実際にデータを分析しながら、統計分析の考え方、手法を身に付ける。また、上記の統計分析手法を用いた日中両言語の言語研究、言語教育研究の論文を講読しながら、どのような場合にどの統計分析手法を用いるべきかについての理解を深める。	
		言語学研究 3 D (日中対照言語学)	本講義は、コーパスデータ分析と日本語教育・中国語教育研究への応用について理解を深め、独自で学習者データを分析し、論文執筆できることを目標とする。講義では、学習者の作文・発話コーパス、教材コーパス、母語話者コーパスと比較分析することにより、学習者の中間言語の量的逸脱、誤用、母語転移、回避方略の面から学習者の言語産出実態を探り、また現行教材を分析し、その問題点について議論していく。具体的には先ずは利用できる学習者作文・発話データを入手して、学習者の日本語・中国語習得の文献を講読した上で、実際に学習者の発話データ・作文データを検索、分析して、論文にまとめあげていく。	
	文化研究領域	文化研究 1 A (英米文化研究)	本講義は、表象理論とカルチュラル・スタディーズを中心とした、文化研究の理論的な枠組みの導入となる講義である。 前期では表象理論について学び、最初にその基礎的な概念を理解し、次に文学、雑誌、絵画、ポスター、映画、ドラマ、アニメなどの各メディアを用いた具体例を通じて表象分析の手続きを学び、最後に文化研究の分析ツールとしてその手法を実践的に応用できる手法を身に付けていく。 扱うテーマは、ジェンダー、民族・国家、家族、病などで、各時代・文化においてそれらがどのように（とりわけ大衆レベルで）表象され、そこからどのような歴史・文化的な認識を読み取ることができるのかを学修していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	研究科目	文化研究領域	文化研究1B (英米文化研究)	<p>本講義は、「文化研究1A (英米文化研究)」に引き続き、表象理論とカルチュラル・スタディーズを中心とした、文化研究の理論的な枠組みの導入となる講義である。</p> <p>後期ではカルチュラル・スタディーズについて学び、最初にその学問が成立した歴史・文化的な背景を説明し、次にオーディエンス、encoding/decoding、ラベリング、ヘゲモニーといったキーコンセプトに基づく複数の理論的アプローチを学び、最後に文化研究の分析ツールとしてそれらをどのように援用できるのか学んでいく。カルチュラル・スタディーズを広義に捉え、メディア研究、ポスト・コロニアリズム、クィア・スタディーズを包含する形で、せめぎ合う諸力の運動体として文化を研究していく視野を養成する。</p>	
			文化研究1C (英米文化研究)	<p>本講義は、「文化研究1A (英米文化研究)」で学んだ理論の応用編である。具体的には、19世紀末から20世紀初頭にかけての世紀転換期のアメリカ文化について、以下の項目にしたがって講義を行う。</p> <p>①レッセフェール経済、ユートピア運動、ポピュリズム ②世紀転換期の移民問題、スラム問題、改革思想 ③社会進化論、優生学、犯罪人類学</p> <p>①では、経済を中心に当時の二極化した世界像を、ユートピア思想と農民運動を通して確認していく。②では、新移民のアメリカ社会への影響、他者に対する通俗レベルでの認識を表象分析の観点から見ていく。③では、社会改革と科学の関係を、当時支配的であった二つの学問、社会進化論と優生学から分析していく。</p> <p>本講義は、事実よりも認識の観点から表象レベルで歴史を読み解いていく実践例となる。</p>	
			文化研究1D (英米文化研究)	<p>本講義は、「文化研究1B (英米文化研究)」で学んだ理論の応用編である。具体的には、19世紀から20世紀にかけての欧米のサブカルチャーを、視覚文化という切り口から、以下の項目にしたがって講義を行う。</p> <p>①パノラマと映画②万国博覧会③パサージュとデパート</p> <p>①では、19世紀に「娯楽の王道」とされたパノラマのメディアとしての機能、旅行の代理としての機能が、視覚文化の基礎をどのようにして築き上げ、それを映画へとつなげていったのかを概説する。②では、1851年のロンドン万博からはじまる国家的イベントをヴィジュアル教育という観点から論じ、それがいかに経済的、文化的、そして帝国主義的な機能を発揮したかを論じていく。③では、世界最初のデパートであるフランスのボン・マルシェを中心に、パサージュ (商店街) からデパートへ発展し、使用価値から交換価値に基づく販売戦略を展開させていくなかで、それがいかに視覚文化とコミットしていったかを見ていく。</p>	
			文化研究2A (比較文化研究)	<p>比較文化・文学研究における基本的な観方・考え方、及び研究の方法をヨーロッパの「オリエンタリズム」思想を通して理解していくとともに、多文化・多民族間の摩擦問題や争いが多発している現代社会における私達自身と「他者」の関係について考える。前期では、18世紀イギリスの紀行／冒険小説『ロビンソン・クルーソー』(D・デフォー)、『ガリヴァー旅行記』(J・スウィフト)と18世紀フランスの想像小説『ペルシャ人の手紙』(モンテスキュー)、『カンディード又は楽天主義説』(ヴォルテール)をとりあげ、文化的・社会的又は歴史的視点から、それぞれの作者の「他者」／オリエントに対する観方を比較・批評する。</p>	
			文化研究2B (比較文化研究)	<p>本講義では、「文化研究2A (比較文化研究)」に引き続き、比較文化・文学研究における基本的な観方・考え方、及び研究の方法を、19世紀から20世紀にかけてのイギリスとフランスの「オリエンタリズム」思想を中心に理解していく。また、現代社会における多文化・多民族間の摩擦問題や争いについて考えるとともに、その中で生きる私達自身が「他者」とどのような関係を構築していけるか模索する。授業は以下の項目に従って進めていく。</p> <p>①フランス普遍思想と「アングロ・インディアン」オリエンタリズム ②「アングロ・インディアン」オリエンタリズム：『高原平話集』(R・キプリング)、『インドへの道』(E・M・フォスター) ③フランス・リアリズム文学にみられるロマン主義：『ボヴァリー夫人』(G・フローベール)</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	文化研究領域	文化研究 2 C (比較文化研究)	本講義では、「文化研究 2 A (比較文化研究)」「文化研究 2 B (比較文化研究)」の内容をふまえた上で、20世紀変動の時代を生きたヨーロッパの作家G・オーウェルとA・カミュに焦点をあて、2人の生き様、及び作品を比較・検証することにより、比較文化・文学研究における専門性を深めていく。また、現代社会を生きる私達が直面する問題を再認識し、今後の社会との関わり方を模索する。授業では、まずオーウェルの以下の小説4作品をみていく。 ①『ビルマの日々』(処女作) ②『空気をもとめて』③『動物農場』④『1984年』	
		文化研究 2 D (比較文化研究)	「文化研究 2 C (比較文化研究)」でとりあげたG・オーウェルの人生・作品をふまえ、本講義ではオーウェルと同じように20世紀変動の時代を生きたアルジェリア生まれのフランス人作家A・カミュに着目し、作家と人生/文学と政治というテーマのもと、オーウェルとカミュという2人の社会派作家について、それぞれの生い立ちや人生経験をふまえた上で彼らの作品を比較・対照する。授業は以下の項目に従って進めていく。 ①不条理のヒーロー：『異邦人』、『シーシュポスの神話』②反抗的ヒーロー：『ペスト』、『反抗的人間』③『ペスト』と『1984年』	
	国際社会研究領域	国際社会研究 1 A (国際関係)	国際関係学は、主権国家を基軸とする国家間の諸関係を分析する学問として始まったが、国家間の相互依存関係の深化、グローバル化とともに扱う領域は拡大し、国家以外の主体が果たす役割も大きくなっている。本講義では、国際関係の実像をより確かにとらえ、複眼的視野で分析を行うための理論を修得する。具体的には、国際関係学の主要理論であるリアリズム(現実主義)、ネオ・リアリズム、リベラリズム(自由主義)、ネオ・リベラリズム、コンストラクティビズム(構成主義)である。その上で、実際に起こっている事柄を事例として、それぞれの分析視角の持つ有利性や限界について議論する。	
		国際社会研究 1 B (国際関係)	本講義では、「国際社会研究 1 A (国際関係)」で修得した理論に基づいて、現実には起きている事象を分析する。具体的には、安全保障の分野では、冷戦からポスト冷戦期の安全保障、9.11後のテロ対策と国際協調について、国際経済関係分野では、第二次世界大戦後の貿易レジーム体制の構築、グローバル化に伴うWTO体制とその揺らぎ、地球環境の分野では、経済成長と環境の問題、持続可能な開発、地球環境レジームの形成と発展、人権分野では、戦後の人権レジームの発展、戦争・国内紛争と難民、移民問題、グローバル化に伴う企業の社会的責任と人権などを取り上げる。この他、受講生は自らの関心分野について「国際社会研究 1 A (国際関係)」で修得した理論を使って分析を行い、議論する。	
		国際社会研究 1 C (国際関係)	本講義では、「国際社会研究 1 A (国際関係)」で取り上げた分析枠組みの一つであるコンストラクティビズム(構成主義)をもとに、非国家行為体、とりわけNGO(非政府組織)がグローバルな規範の構築に果たした役割を分析する。国際社会は国家が基本的な行為主体とは言え、NGOもまた様々な分野で規範の構築過程に積極的に関わってきた。とくに1990年代以降、NGOの果たしてきた役割は国際社会の注目を集め、「規範起業家」とも呼ばれるようになった。対人地雷禁止条約や核兵器禁止条約等は、国際NGOのネットワークが国際世論を喚起し、政府や企業、国際機関を巻き込みながら、新しい規範を構築する原動力となった事例である。本研究では、NGOによって行われた規範形成の事例を分析するとともに、その取り組みの成功要因と今後の課題を検討する。	
		国際社会研究 1 D (国際関係)	本講義では、「国際社会研究 1 A (国際関係)」で取り上げた分析枠組みの一つであるコンストラクティビズム(構成主義)をもとに、市民社会の役割に注目する。経済のグローバル化の進展とともに国内外で格差が拡大し、環境破壊や人権侵害が深刻化していることから国家以外の私的アクター(企業や投資家、NGO、地域住民、先住民など)によるプライベート・ソーシャル・レジームや反グローバル化運動、認証制度の構築などの事例を取り上げる。こうした事例において私的アクターが果たした役割をコンストラクティビズムの枠組みを使って分析することで、よりの確に捉えるとともに、その取り組みの成功要因と今後の課題を検討する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	研究科目	国際社会研究領域	国際社会研究 2 A (異文化理解)	本講義では、異文化理解を研究の柱の一つに据える学問としての人類学（文化人類学・社会人類学）の学説史について講義する。19世紀半ば頃の英米の人類学草創期において帝国主義・植民地主義的な思想と連動しつつ発展した進化主義及び応用人類学（後の開発人類学）、それとは一線を画すドイツ、オーストリア、日本等の伝播主義、英国社会人類学において20世紀前半から半ばにかけて一世を風靡した機能主義、20世紀後半以降人類学の枠を超えて現代思想に大きなインパクトを与えたレヴィ-ストロースの構造主義、サイードによる『オリエンタリズム』以降の展開などを扱う。	
			国際社会研究 2 B (異文化理解)	本講義では、人類学（文化人類学・社会人類学）の主要課題について、受講者とともに吟味していく。具体的な課題としては、家族と親族、性と婚姻、ジェンダーとセクシュアリティ、生業、ポリティカル・エコノミーと世界システム、民族とエスニシティ、政治と権力、宗教と世界観、時間と儀礼、医療と文化、開発と観光などを取り上げる。受講者は、人類学的研究の対象の幅広さと、それを読み解く理論の蓄積を理解することになるだろう。	
			国際社会研究 2 C (異文化理解)	本講義では、20世紀の前半から半ばにかけて書かれた古典的民族誌（エスノグラフィー）の中から、マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者』、エヴァンズ=プリチャード著『ヌアー族』『アザンデ人の世界』、グリオールとディテルラン著『青い狐』などを取り上げて、受講者とともに内容を詳細に検討する。受講者は、想像をはるかに超える文化の多様性と深度を垣間見るとともに、人類学的な意味でのエスノグラフィーに要求される質や厚みを実感するであろう。	
			国際社会研究 2 D (異文化理解)	本講義では、20世紀後半以降、世界的に見ても顕著な発展を示した日本のアフリカニストによる研究に注目し、いくつかの著作を受講者とともに検討する。＜中心と周縁＞や＜トリックスター＞といった分析概念を駆使して一世を風靡した山口昌男著『アフリカの神話的世界』、人文科学における歴史観や文明観をラディカルに見直す契機となった川田順造著『無文字社会の歴史』、さらには比較的近年の人類学的研究の到達点を示す松田素二著『都市を飼い慣らす』、浜本満著『秩序の方法』『信念の呪縛』などを取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目 博士前期研究指導 1 A	<p>(概要) 修士論文作成のための科目である。研究指導を通じて、「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域に必要な文献・調査研究の理論・手法を学び、それらの成果を研究計画書を取りまとめて、修士論文作成のための準備を進める。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 暁瑞) ソーシャルメディア研究のコンセプトと定性的研究のデザインを中心に研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 修士論文作成の指導を行う。生成文法理論に基づく統語現象について、論文のテーマの決定、理論的枠組みの決定、データ収集、執筆方法について指導する。</p> <p>(3 田中 宏昌) 社会的な変化の理解と、ビジネスディスコース分析の適用の可能性のある分野を例示し、自らの問題点と研究の接点を見つける方法を指導する。</p> <p>(4 毛利 聡子) 学生が修士論文で取り上げる、国際関係の理論を用いたテーマの絞り込みを行い、複数の先行研究を読み込む。テーマに関連した先行研究の批判的検討を行う上で必要な指導を行う。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、サブカルチャーを中心とした文化研究の方法論を指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 人類学的研究に着手する前提として、先行研究を幅広く渉猟して、批判的に読み解き、整理する必要がある。この点を中心に指導する。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学の関連するテーマを例示しながら、修士論文で取り組むべき研究テーマ、そして、リサーチ・クエスチョンを確定できるように指導する。</p> <p>(8 高島 美穂) 異なる歴史・社会的背景をもつヨーロッパの国や人々を対象に、比較文化研究の方法を指導する。</p> <p>(10 趙 海城) 日本語学・日中対照言語学・中間言語対照分析の研究理論を紹介し、量的研究手法を用いて分析する方法を指導し、研究テーマ選定をサポートする。</p> <p>(11 川又 孝徳) ディスコース研究の理論に基づき、質的研究方法論を用いて自然発生した会話・テキストデータを分析する方法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目 博士前期研究指導 1 B	<p>(概要) 修士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域において、前期で学んだ理論・手法に基づいた導入的な研究を行い、修士論文作成のための準備を進める。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 暁瑞) ソーシャルメディア研究の定性的研究方法、データ収集とデータ分析方法を中心に研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 修士論文作成の指導を行う。生成文法理論に基づく統語現象について、論文のテーマの決定、理論的枠組みの決定、データ収集、執筆方法について指導する。</p> <p>(3 田中 宏昌) 研究対象の決定と研究課題を作成するための指導を行い、ビジネスディスコース分析としての研究課題にふさわしい研究アプローチと、概念的枠組みを構築するための指導をする。</p> <p>(4 毛利 聡子) 「博士前期研究指導 1 A」に引き続き、国際関係の理論を用い、学生が絞り込んだテーマに関連する事例分析の方法論を指導する。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、サブカルチャーを中心とした文化研究の方法論を指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 博士前期研究指導 1 Aに引き続き、人類学的先行研究の渉猟と検討を進め、その上にオリジナリティのある研究テーマの設定を行うよう指導する。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学に関する研究テーマ、リサーチ・クエスチョンについて研究するために、研究対象者、適切な研究手法、そして、実際のデータ収集のために必要な準備に関しての指導を行なう。</p> <p>(8 高島 美穂) 異なる歴史・社会的背景をもつヨーロッパの国や人々を対象に、比較文化研究の方法を指導する。</p> <p>(10 趙 海城) 日本語学・日中対照言語学・中間言語対照分析の研究理論を紹介し、量的研究手法を用いて分析する方法を指導し、研究テーマ選定をサポートする。</p> <p>(11 川又 孝徳) ディスコース研究の理論に基づき、質的研究方法論を用いて自然発生した会話・テキストデータを分析する方法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 論文指導科目	博士前期研究指導 2 A	<p>(概要) 「博士前期研究指導 1」に引き続き、修士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域における1年次の導入的な研究をさらに発展させて、修士論文作成のための準備を進める。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 暁瑞) ソーシャルメディアにおけるニューリテラシーの定義、構成、及び分析方法について研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 修士論文作成の指導を行う。生成文法理論に基づく統語現象について、論文のテーマの決定、理論的枠組みの決定、データ収集、執筆方法について指導する。</p> <p>(3 田中 宏昌) ビジネスディスコース分析に係るデータ分析の手法と、分析時に使うための概念の適用方法を指導する。また研究の進行上の問題解決の方法の理解を進める。</p> <p>(4 毛利 聡子) 国際関係を取り巻く諸問題の中から問いをたてる。この問いに対して先行研究をベースに仮説を立て、対象とする事例に仮説を当てはめることによって、その妥当性を検証する。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、サブカルチャーを中心とした文化研究の方法論を指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 自ら設定した人類学的な研究テーマに適した研究方法を定めるべく、予備的なフィールドワークの実施も含めて研究を推進していくよう指導する。</p> <p>(7 深田 芳史) 収集したデータの分析の方法、そして、データ分析から見えてきた結果をより深く捉え・分析するために必要な、応用言語学に係る概念的枠組みの探し方を指導する。</p> <p>(8 高島 美穂) 異なる歴史・社会的背景をもつヨーロッパの国や人々を対象に、比較文化研究の方法を指導する。</p> <p>(10 趙 海城) 日本語学・日中対照言語学・中間言語対照分析に関する選定したテーマに合ったデータ収集、データ分析手法を指導し、研究遂行過程における問題の解決をサポートする。</p> <p>(11 川又 孝徳) ディスコース研究の理論に基づき、質的研究方法論を用いて自然発生した会話・テキストデータを分析する方法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目 博士前期研究指導 2 B	<p>(概要) 「博士前期研究指導 1」に引き続き、修士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域における1年次の導入的な研究を引き続き発展させて、修士論文として纏める。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 暁瑞) ソーシャルメディア・コンテキストにおける「デジタル・ディスコース」の形成過程及び分析方法について研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 修士論文作成の指導を行う。生成文法理論に基づく統語現象について、論文のテーマの決定、理論的枠組みの決定、データ収集、執筆方法について指導する。</p> <p>(3 田中 宏昌) ビジネスディスコース分析研究の評価と、結論の構築に関する指導を行う。研究の基本的な長所と弱点を理解した上で、適切な結論の構築方法の理解をすすめる。</p> <p>(4 毛利 聡子) 考察として仮説の妥当性と限界をまとめ、国際関係を取り巻く今後の課題を提示するよう指導する。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、サブカルチャーを中心とした文化研究の方法論を指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 自らの人類学的研究を修士論文に結実できるよう、コーチングの手法を用いてさらに指導していく。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学研究のデータ分析結果を整理し、その結果が示唆すること・結論を明確にする。また、序論、過去の関連研究、メソロジーも含め、修士論文全体の構成を確定させ、それを完成できるように指導する。</p> <p>(8 高島 美穂) 異なる歴史・社会的背景をもつヨーロッパの国や人々を対象に、比較文化研究の方法を指導する。</p> <p>(10 趙 海城) 日本語学・日中対照言語学・中間言語対照分析の研究遂行過程における問題の解決をサポートし、データ分析を経て、研究理論を援用した考察の進め方、記述方法を指導する。</p> <p>(11 川又 孝徳) ディスコース研究の理論に基づき、質的研究方法論を用いて自然発生した会話・テキストデータを分析する方法を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（人文学研究科 国際コミュニケーション専攻 博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	コミュニケーション研究領域	コミュニケーション特殊研究1A（ビジネスコミュニケーション）	ビジネスディスコース分析をより広い視野から理解し、変化する社会に適応してきた研究を俯瞰していく。本講義では社会文化理論に基づいた学習理論に則った組織開発、人材育成へのビジネスディスコース研究の適用を理解することを目標とする。世界における人的資源開発の流れと、人材資源育成の役割の変化、組織文化革新などの実例を精査しながら、言語的な研究から組織開発の教育に至る道筋を探っていく。実践共同体、主体、社会的学習、現代認知心理学理論、アイデンティティなどをキーワードとして、ディスコース研究のアプローチを使った研究をケーススタディとして取り上げていく。
		コミュニケーション特殊研究1B（ビジネスコミュニケーション）	本講義では、ビジネスディスコース研究を批判的な視点で分析していく。ポスト構造主義、ポジティビズム、ネオリベラリズム、デカルト的二元論、言語帝国主義、批判的談話分析などの概念を理解し、これらの概念をもとに投げかけられたビジネスディスコース分析への批判的視座を精査していく。さらに、これらの批判の回答として展開されてきた、批判的経営学理論、複眼的分析、エスノグラフィとエスノメソドロジーの統合、ビジネスディスコース研究などの諸アプローチを読み解いていく。
		コミュニケーション特殊研究2A（メディア研究）	本講義は社会言語学の分野に位置付け、「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を下記三つの側面から検討することを目的とする。まず、言語の側面。言語学と社会言語学的アプローチから言語の社会的役割、コミュニケーターの意図の成り立ち、インターアクションの中の意味の共同構築、社会・文化的コンテキストにおける意味の解釈について議論していく。次に、テクノロジー。テクノロジー決定論、テクノロジー補充論、リングイスティック・テクノロジー、デジタル・テクノロジーの概念について議論していく。最後に、ニュー・メディアに関するメタレベルのディスカッション・フレーミングについて検討していく。
		コミュニケーション特殊研究2B（メディア研究）	本講義は社会言語学の分野に位置付け、「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を下記三つの側面から検討することを目的とする。まず、マルチモダリティ。メディアム、モード、そして上記両者間のインタープレイ、マルチプル・セミオティック・リソースについて議論していく。そして、ニュー・メディアにおける創造的な新しいジャンルを探索する。次に、ニュー・メディアにおけるアイデンティティの創出。デジタル環境において、アイデンティティの演出過程について議論する。最後に、イデオロギー。リングイスティック及びフーコディアン・ディスコースの概念を用い、私たちはニュー・メディア上でのマイクロレベルのコミュニケーション実践はどのように社会秩序、社会文化的信念、知識に対する認識により左右されているのかに対して議論を展開していく。
	言語学研究領域	言語学特殊研究1A（英語学）	現代の言語研究は、生成文法理論の研究により、構造分析は一定の成果を上げてきている。それに伴って、研究の視点は構造から意味へと進展している。機能文法は構造と意味を関連付けて言語を分析する。認知言語学は、より意味に重きを置いた分析をする。これらの研究手法は、お互いに補い合う関係となっている。本講義では、生成文法の言語分析を扱う。特に、移動現象や照応関係などに関する分析を取り上げる。構造に起因する文法性の判断がどのようなメカニズムで生じるかを分析する。それにより、問題提起、問題の原因の究明、原因の解決を発見する生成文法理論の基づく論述法を学ぶ。
		言語学特殊研究1B（英語学）	現代の言語研究は、生成文法理論の研究により、構造分析は一定の成果を上げてきている。それに伴って、研究の視点は構造から意味へと進展している。機能文法は構造と意味を関連付けて言語を分析する。認知言語学は、より意味に重きを置いた分析をする。これらの研究手法は、お互いに補い合う関係となっている。本講義では、機能文法と認知言語学の言語分析を扱う。特に、機能文法の情報構造と認知言語学のイメージ・スキーマに関する分析を取り上げる。文の構造だけでは説明できない文法性の是非の判断がどのようなメカニズムで生じるかを分析する。それにより、問題提起、問題の原因の究明、原因の解決を発見する機能文法と認知言語に基づく論述法を学ぶ。

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	言語学研究領域	言語学特殊研究 2 A (英語教育)	本講義では、語学学習への取り組みや成果に大きく影響するとされる、個々の語学学習者のアイデンティティ・動機づけに焦点を当て、本テーマの研究動向をより深く、詳細なレベルで理解することを目指す。また、近年行われる、本研究テーマ研究の研究デザインについての理解も深め、そこから見えてくる課題・問題点も議論する。さらには、最終課題として、履修者がチームとなって、本研究テーマに関わるスモールスタディーの研究デザイン、データ収集を行い、その結果を共有しながら、本テーマの研究のこれからの在り方を検討していく。実際に本研究テーマで研究を行なうことで、博士課程後期学生が修了後に求められる研究スキルの獲得を目指す。	
		言語学特殊研究 2 B (英語教育)	本講義では、語学学習者の教室内・外における目標言語を介した社会的やりとりについて焦点を当て、本テーマの研究動向をより深く、詳細なレベルで理解することを目指す。また、近年行われる、本研究テーマ研究の研究デザインについての理解も深め、そこから見えてくる課題・問題点も議論する。さらには、最終課題として、履修者がチームとなって、本研究テーマに関わるスモールスタディーの研究デザイン、データ収集を行い、その結果を共有しながら、本テーマの研究のこれからの在り方を検討していく。実際に本研究テーマで研究を行なうことで、博士課程後期学生が修了後に求められる研究スキルの獲得を目指す。	
		言語学特殊研究 3 A (日中対照言語学)	本講義では、一般言語学、コーパス言語学、日中対照言語学の諸理論を踏まえ、日中両言語の同形異義語、副詞、数量表現、自他動詞構文、テンス・アスペクト、モダリティ、ボイス、授受表現、複文などの類似点と相違点を探る。コロケーション情報、ジャンル別使用傾向といった計量的言語研究手法で得られたデータを切口に、両言語の表現上の異同点を分析していく。上記作業により、日中両言語の言語表現の背後にある発想の違い、言語運用ルールの相違を考察し、両言語に対する理論的理解を深めることを目的とする。	
		言語学特殊研究 3 B (日中対照言語学)	本講義は、第二言語習得理論、特に中間言語対照分析理論、「対照研究、誤用観察、検証調査」という三位一体の研究モデルを基盤に、中国人日本語学習者、日本人中国語学習者の言語産出データ(作文・発話)を分析して、母語転移の可能性を考慮した学習者の言語産出の特徴と誤用・非用、過剰・過少使用、回避の傾向を探る。上記作業により、学習者の日本語習得プロセス、誤用の実態及びその要因、普遍的学習困難点を解明することを目的とする。	
	文化研究領域	文化特殊研究 1 A (英米文化研究)	本講義では、文化研究の諸理論について、以下の項目にしたがって学んでいく。 ①ルイ・アルチュセールの構造主義的マルクス主義②アントニオ・グラムシのヘゲモニー論③ミッシェル・フーコーの権力論 ①では、イデオロギー装置の概念のもと、家庭、学校、メディアを媒介とした日常的な実践から主体が構築されるプロセスについて学ぶ。②では、文化という場でせめぎ合う諸力から、ヘゲモニーの力学によって支配的な「正統な文化」が形成されていくメカニズムを探っていく。③では、ミクロの権力とその内面化という概念のもと、言説の効果を通じて身体レベルにまで波及していく文化の力について考察していく。 以上、文化研究には不可欠な思想・方法を、原典にあたりつつ身に付けていくのがこの授業の目的となる。	
		文化特殊研究 1 B (英米文化研究)	本講義では、「文化特殊研究 1 A (英米文化研究)」に引き続き、文化研究の諸理論について、以下の項目にしたがって学んでいく。 ①スチュアート・ホルのメディア論②ジュディス・バトラーのパフォーマンス理論③文献選定・調査方法 ①では、encoding/decodingという双方向の運動を経て、メディアとオーディエンスの相互作用が文化を変容させていくダイナミズムを見ていく。②では、演技を通して構築される文化・社会的な身体が、ズラされ解体されていく可能性をジェンダーの切り口から学ぶ。③では、以上の諸理論を踏まえて、体系的にそれらを学習できるように、文献選定・調査の方法を包括的に確認していく。 以上、文化研究には不可欠な思想・方法を、原典にあたりつつ身に付けていくのがこの授業の目的となる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	文化研究領域	文化特殊研究 2 A (比較文化研究)	<p>本講義は、比較文化・文学研究において更に専門性を深めるべく、G・オーウェルとA・カミュの小説、及び政治的エッセイを通して英語の長文読解力をつけるとともに、文学を社会・歴史・文化との密接な関係においてより広い視野からとらえることにより、社会的見地や問題意識を深めていくことを目的とする。前期は以下の項目に従って進める。</p> <p>①G・オーウェルとA・カミュ：作家と人生/20世紀文学と政治 ②『1984年』と『反抗の人間』 ③作家と政治(1)：「反抗」の思想と実現</p>	
		文化特殊研究 2 B (比較文化研究)	<p>本講義は、「文化特殊研究 2 A (比較文化研究)」に引き続き、G・オーウェルのディストピア小説『1984年』とA・カミュの政治的エッセイ『反抗の人間』にみられる政治・社会的問題や知識人の社会的責任に関する両作家の対照的、かつ共通した姿勢を比較・検証することにより、現代を生きる私達が直面する問題や生き方を模索する。授業は、以下の項目を中心に進めていく。</p> <p>①作家と政治(2)：「反抗」の思想と実現 ②作家と政治(3)：「中庸」の精神・立場 ③文学と政治：「反抗」と「中庸」</p>	
	国際社会研究領域	国際社会特殊研究 1 A (国際関係)	<p>本講義では、学生が博士論文作成にあたって取り上げた研究テーマに関し、国際関係論における諸理論(リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムなど)の中から事例分析に妥当な理論的枠組みが選択できるような指導する。具体的には、先行研究の批判的検討を踏まえた上で、事例分析をするのに適切な理論的枠組みが選択できているかをアドバイスする。また、具体的な事例分析に必要なデータの収集を行う対象、期間、場所、方法などについても、指導する。</p>	
		国際社会特殊研究 1 B (国際関係)	<p>本講義では、博士論文で取り上げるテーマに関する事例分析の結果を検証する。その際、事例分析に必要なデータは十分に収集できているか、また、そのデータの途中分析を行い、不足している場合、どこで、どのようにデータ収集が可能となるのかについて考え、指導を行う。必要な場合、追加調査を行う。また、最終的に博士論文を仕上げる過程で、学会や研究会等で発表をする機会をつくり、学内のみならず、他大学の研究者からも多くのアドバイスやコメントを得て、推敲を重ね、完成させる。</p>	
		国際社会特殊研究 2 A (異文化理解)	<p>本講義では、アフリカ大陸内陸部やアラビア半島諸地域をはじめとするインド洋世界との人やモノをめぐる様々な交流を視野に収めつつ、東アフリカ海岸地方の歴史、社会、宗教について人類学(文化人類学・社会人類学)的な立場から詳しく論じる。歴史的にはとくに18-19世紀に注目し、インド洋沿岸の都市部におけるイスラーム、その後背地における祖先崇拜などの伝統宗教(非イスラーム)という宗教的な分節や共通性に注目し、人類学の諸理論に照らして分析、考察する。</p>	
		国際社会特殊研究 2 B (異文化理解)	<p>本講義では、異文化理解の事例として、東アフリカ海岸地方後背地の宗教文化について論じる。具体的には、ケニアのカウマ社会における妖術及び憑依霊信仰、さらには「カヤ」と呼ばれる民族の神聖な森の歴史的動態に注目し、同社会のジェンダーや長老をめぐる権力構造との関連も含めて詳細に論じる。その中では、妖術と憑依霊についての人類学(文化人類学・社会人類学)上提唱されてきた諸理論を参照しつつ、受講者とともに多様な視角から検討を試みる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目 博士後期研究指導 1 A	<p>(概要) 博士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域の研究指導を通じて、研究テーマをさらに専門的に絞り込み、文献・調査研究の高度な手法を確立して、博士論文作成に備える。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 曉瑞) 「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を中心に、ディスコース理論の側面において研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 生成文法の枠組みを基本とした言語現象の分析。</p> <p>(3 田中 宏昌) 現代に至るまでの社会経済的・社会文化的な変化と、その中における問題点を批判的な視点で洗い出し、研究課題を設定していく指導をする。</p> <p>(4 毛利 聡子) 学生が博士論文で取り上げる、国際関係の理論を用いたテーマに関連した国内外の先行研究を読み込み、リサーチクエスションと仮説を立てる。その仮説を検証するための事例研究の方法、内容について指導する。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、具体的なテーマを決定、研究論文という形で成果を纏めるように指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 博士レベルの人類学的研究を進めるためには、少なくとも2年間程度のフィールドワークを行う必要がある。そのための準備を中心に指導する。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学の関連するテーマを幅広く例示しながら、博士論文で取り組むべき研究テーマ、そして、リサーチ・クエスションを確定できるよう指導する。</p> <p>(8 高島 美穂) 比較文化・文学研究の枠組みの中で主要テーマ、及び具体的な対象作品や参考文献を決定し、研究論文の執筆が進められるよう指導する。</p> <p>(9 趙 海城) 学生の研究関心に配慮しながら、現代日本語文法研究、日中対照言語学研究、中国人の日本語習得、日本人の中国語習得に関する理論を指導し、研究テーマ決定、データ収集や分析手法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 論文指導科目	博士後期研究指導 1 B	<p>(概要) 博士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域の研究指導を通じて、研究テーマをさらに専門的に絞り込み、文献・調査研究の高度な手法を確立して、博士論文作成に備える。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 曉瑞) 「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を中心に、言語学の側面において研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 生成文法の枠組みを基本とした言語現象の分析。</p> <p>(3 田中 宏昌) 社会経済的・社会文化的な変化に関する研究課題に内包する問題点をより多方面の研究から明確化し、研究課題に対する適切な研究アプローチを選択することを指導していく。</p> <p>(4 毛利 聡子) 国際関係の理論を用いた事例研究のデータが収集できているかを確認する。必要であれば、仮説の練り直しや説明変数を修正するなど、必要な指導をする。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、具体的なテーマを決定、研究論文という形で成果を纏めるように指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 履修者の準備状況に応じて、人類学的研究を進めるためのフィールドワークへの助言を行う。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学に関する研究テーマ、リサーチ・クエスションに関わる過去の文献の読み込みを網羅し、設定したリサーチ・クエスションが過去の研究でまだ見出されていないものであるのかを確認するよう指導する。必要であれば、リサーチ・クエスションの調整を共に検討する。</p> <p>(8 高島 美穂) 比較文化・文学研究の枠組みの中で主要テーマ、及び具体的な対象作品や参考文献を決定し、研究論文の執筆が進められるよう指導する。</p> <p>(9 趙 海城) 学生の研究関心に配慮しながら、現代日本語文法研究、日中対照言語学研究、中国人の日本語習得、日本人の中国語習得に関する理論を指導し、研究テーマ決定、データ収集や分析手法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 論文指導科目	博士後期研究指導 2 A	<p>(概要) 「博士後期研究指導 1」に引き続き、博士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域の研究指導を通じて、博士論文のテーマを固め、高度な研究手法を通して論文のひな型となる研究を行う。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 曉瑞) 「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を中心に、社会言語学の側面において研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 生成文法の枠組みを基本とした言語現象の分析。</p> <p>(3 田中 宏昌) 社会経済的・社会文化的な変化に関する研究データ分析とその概念的枠組みの構築を指導していく。問題点を提示し、それを議論することで、枠組みとなる概念を理解することを目標とする。</p> <p>(4 毛利 聡子) 国際関係の理論を用いた研究について、事例分析に必要なデータが十分収集できているか、また、そのデータの途中分析を行い、結果について論文(中間)としてまとめ、国内外の学会等で口頭発表できるように指導を行う。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、具体的なテーマを決定、研究論文という形で成果を纏めるように指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 博士論文執筆を視野に、人類学的研究を進めるためのフィールドワークへの助言を行う。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学に関する研究テーマ、リサーチ・クエスチョンについて研究するために、研究対象者、適切な研究手法、そして、実際のデータ収集のために必要な準備に関しての指導を行なう。</p> <p>(8 高島 美穂) 比較文化・文学研究の枠組みの中で主要テーマ、及び具体的な対象作品や参考文献を決定し、研究論文の執筆が進められるよう指導する。</p> <p>(9 趙 海城) 学生の研究関心に配慮しながら、現代日本語文法研究、日中対照言語学研究、中国人の日本語習得、日本人の中国語習得に関する理論を指導し、研究テーマ決定、データ収集や分析手法、研究成果発表方法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	論文指導科目 博士後期研究指導 2 B	<p>(概要) 「博士後期研究指導 1」に引き続き、博士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域の研究指導を通じて、博士論文のテーマを固め、高度な研究手法を通して論文のひな型となる研究を行う。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 曉瑞) 「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を中心に、メディアム、モード、マルチモダリティの側面において研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 生成文法の枠組みを基本とした言語現象の分析。</p> <p>(3 田中 宏昌) 引き続き、社会経済的・社会文化的な変化に関する研究データ分析とその概念的枠組みの構築を指導していく。さらに高度な議論を展開し、より深い概念の理解に到達することを目標とする。</p> <p>(4 毛利 聡子) 国際関係の理論を用いた研究について、事例分析の結果（中間）を論文としてまとめ、学会誌等で発表できるよう指導を行う。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、具体的なテーマを決定、研究論文という形で成果を纏めるように指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 人類学的研究を進めるためのフィールドワークの進行状況に合わせて、博士論文構想へ向けての助言を行う。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学研究について、データを収集し、結果を確認していく中で、そのデータをより深く分析するのに必要な概念的枠組みを検討する。</p> <p>(8 高島 美穂) 比較文化・文学研究の枠組みの中で主要テーマ、及び具体的な対象作品や参考文献を決定し、研究論文の執筆が進められるよう指導する。</p> <p>(9 趙 海城) 学生の研究関心に配慮しながら、現代日本語文法研究、日中対照言語学研究、中国人の日本語習得、日本人の中国語習得に関する理論を指導し、研究テーマ決定、データ収集や分析手法、研究成果発表方法を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 論文指導科目	博士後期研究指導 3 A	<p>(概要) 「博士後期研究指導 2」に引き続き、博士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域の研究指導を通じて、これまでの研究成果を博士論文として纏める作業に入る。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 曉瑞) 「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を中心に、デジタル・アイデンティティの創出の側面において研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 生成文法の枠組みを基本とした言語現象の分析。</p> <p>(3 田中 宏昌) 分析の妥当性、信頼性の評価を中心として、社会経済的・社会文化的な変化に関する分析結果を批判的に見る目を持つことを指導していく。</p> <p>(4 毛利 聡子) 国際関係の理論を用いた研究について、中間発表を経て、論文の推敲を行い、博士論文としての完成度を高めていくよう指導する。とくに、分析の妥当性、適格性を検証する。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、具体的なテーマを決定、研究論文という形で成果を纏めるように指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) フィールドワークの結果に基づき、人類学的研究に関する博士論文の執筆に関する助言を行う。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学研究について、さらにデータ分析を進め、過去の研究ではまだ示されていないこと何であるかを検討し、新たな理論・概念的枠組みの構築を目指す。さらに、博士論文全体の構成を検討する。</p> <p>(8 高島 美穂) 比較文化・文学研究の枠組みの中で主要テーマ、及び具体的な対象作品や参考文献を決定し、研究論文の執筆が進められるよう指導する。</p> <p>(9 趙 海城) 学生の研究関心に配慮しながら、現代日本語文法研究、日中対照言語学研究、中国人の日本語習得、日本人の中国語習得に関する理論を指導して、研究成果発表をサポートし、博士論文執筆を指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 論文指導科目	博士後期研究指導 3 B	<p>(概要) 「博士後期研究指導 2」に引き続き、博士論文作成のための科目である。「コミュニケーション研究領域」、「言語学研究領域」、「文化研究領域」、「国際社会研究領域」の各領域の研究指導を通じて、これまでの研究成果を博士論文として纏めて提出する。</p> <p>研究指導教員ごとの研究テーマは以下の通りである。</p> <p>(1 張 曉瑞) 「デジタル・ディスコース」の理論的枠組を中心に、イデオロギーの側面において研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 俊治) 生成文法の枠組みを基本とした言語現象の分析。</p> <p>(3 田中 宏昌) 社会経済的・社会文化的な変化に関する分析結果の解釈、より広い意味での社会的な適用などを議論を通して考察する。論文完成に向けて論理構成などが指導の中心となる。</p> <p>(4 毛利 聡子) 国際関係の理論を用いた研究について、博士論文として完成するよう指導を行う。</p> <p>(5 細谷 等) 表象理論とカルチュラル・スタディーズを理論的枠組みとして、具体的なテーマを決定、研究論文という形で成果を纏めるように指導する。</p> <p>(6 菊地 滋夫) 人類学的研究に関する博士論文の完成に向けて助言を行う。</p> <p>(7 深田 芳史) 応用言語学研究について、データ分析結果を整理し、新たに明らかにされたことが、関連分野の社会的コンテキストの中でどのような意味を持つのかを検討するとともに、博士論文全体の内容を固め、完成できるよう指導していく。</p> <p>(8 高島 美穂) 比較文化・文学研究の枠組みの中で主要テーマ、及び具体的な対象作品や参考文献を決定し、研究論文の執筆が進められるよう指導する。</p> <p>(9 趙 海城) 学生の研究関心に配慮しながら、現代日本語文法研究、日中対照言語学研究、中国人の日本語習得、日本人の中国語習得に関する理論を指導して、研究成果発表をサポートし、博士論文執筆を指導する。</p>	

明星大学 組織の移行表

令和元(2019)年度

●明星大学

・通学課程

学部等	学科等	入学定員	収容定員
理工学部	物理学系	400	1,600
	生命科学・化学系		
	機械工学系		
	電気電子工学系		
	建築学系		
	環境科学系		
	小計	400	1,600
人文学部	国際コミュニケーション学科	100	400
	人間社会学科	80	320
	日本文化学科	100	400
	福祉実践学科	60	240
	小計	340	1,360
経済学部	経済学科	260	1,040
情報学部	情報学科	140	560
教育学部	教育学科	350	1,400
経営学部	経営学科	200	800
デザイン学部	デザイン学科	120	480
心理学部	心理学科	120	480
通学課程合計		1,930	7,720

・通信教育課程

教育学部	教育学科	2,000	8,000
------	------	-------	-------

●明星大学大学院

・通学課程(博士前期課程)

研究科	専攻	入学定員	収容定員
理工学研究科	物理学専攻	10	20
	化学専攻	10	20
	機械工学専攻	10	20
	電気工学専攻	10	20
	建築・建設工学専攻	5	10
	環境システム学専攻	5	10
	小計	50	100
人文学研究科	英米文学専攻	10	20
	社会学専攻	10	20
	心理学専攻	10	20
	小計	30	60
情報学研究科	情報学専攻	7	14
経済学研究科※	応用経済学専攻	10	20
教育学研究科	教育学専攻	10	20
通学課程(博士前期課程) 合計		107	214

※経済学研究科は修士課程

・通学課程(博士後期課程)

研究科	専攻	入学定員	収容定員
理工学研究科	物理学専攻	5	15
	化学専攻	5	15
	機械工学専攻	5	15
	電気工学専攻	5	15
	建築・建設工学専攻	3	9
	環境システム学専攻	2	6
	小計	25	75
人文学研究科	英米文学専攻	3	9
	社会学専攻	3	9
	心理学専攻	3	9
	小計	9	27
情報学研究科	情報学専攻	3	9
教育学研究科	教育学専攻	3	9
通学課程(博士後期課程) 合計		40	120

・通信教育課程(博士前期課程)

教育学研究科	教育学専攻	30	60
--------	-------	----	----

・通信教育課程(博士後期課程)

教育学研究科	教育学専攻	3	9
--------	-------	---	---

令和2(2020)年度

●明星大学

・通学課程

学部等	学科等	入学定員	収容定員	変更の事由
理工学部	物理学系	280	1,120	定員変更(△120)
	生命科学・化学系			
	機械工学系			
	電気電子工学系			
	環境科学系			
	小計			
人文学部	国際コミュニケーション学科	100	400	
	人間社会学科	80	320	
	日本文化学科	100	400	
	福祉実践学科	60	240	
	小計	340	1,360	
経済学部	経済学科	260	1,040	
情報学部	情報学科	140	560	
教育学部	教育学科	350	1,400	
経営学部	経営学科	200	800	
デザイン学部	デザイン学科	120	480	
心理学部	心理学科	120	480	
建築学部	建築学科	120	480	学部の設置(届出)
通学課程 合計		1,930	7,720	

・通信教育課程

教育学部	教育学科	2,000	8,000
------	------	-------	-------

●明星大学大学院

・通学課程(博士前期課程)

研究科	専攻	入学定員	収容定員	変更の事由
理工学研究科	物理学専攻	10	20	
	化学専攻	10	20	
	機械工学専攻	10	20	
	電気工学専攻	10	20	
	建築・建設工学専攻	5	10	
	環境システム学専攻	5	10	
	小計	50	100	
人文学研究科	社会学専攻	0	0	令和2年4月学生募集停止
	社会学専攻	10	20	
	社会学専攻	0	0	令和2年4月学生募集停止
	国際コミュニケーション専攻	10	20	専攻の設置(届出)
	小計	20	40	
情報学研究科	情報学専攻	7	14	
経済学研究科※	応用経済学専攻	10	20	
教育学研究科	教育学専攻	10	20	
心理学研究科	心理学専攻	15	30	研究科の設置(届出)
通学課程(博士前期課程) 合計		112	224	

※経済学研究科は修士課程

・通学課程(博士後期課程)

研究科	専攻	入学定員	収容定員	変更の事由
理工学研究科	物理学専攻	5	15	
	化学専攻	5	15	
	機械工学専攻	5	15	
	電気工学専攻	5	15	
	建築・建設工学専攻	3	9	
	環境システム学専攻	2	6	
	小計	25	75	
人文学研究科	社会学専攻	0	0	令和2年4月学生募集停止
	社会学専攻	3	9	
	社会学専攻	0	0	令和2年4月学生募集停止
	国際コミュニケーション専攻	3	9	専攻の設置(届出)
	小計	6	18	
情報学研究科	情報学専攻	3	9	
教育学研究科	教育学専攻	3	9	
心理学研究科	心理学専攻	3	9	研究科の設置(届出)
通学課程(博士後期課程) 合計		40	120	

・通信教育課程(博士前期課程)

教育学研究科	教育学専攻	30	60
--------	-------	----	----

・通信教育課程(博士後期課程)

教育学研究科	教育学専攻	3	9
--------	-------	---	---